

小柳司氣太・日記（五）

『思くさ』

凡例

- 1、原本はB6判の大学ノート（13×20cm）に墨書で横書きに書いてあるので、そのままの体裁を取った。新聞などからの抜粋記事を鉛筆で書き記しているが、あえてその表示はしなかった。
- 2、漢字は原本通りとした。但し、「尹」は（婦）に当てた。
- 3、仮名はほとんどカタカナであるが、変体仮名は平仮名に直した。また、造字の「はコト、𠂔はトモ、𠂔はトキにした。「耳」「子」をカタカナとして使用している場合は「ニ・ノミ」「ネ」とした。
- 4、外国語はそのまま示した。
- 5、明らかな誤字は〈 〉をもって訂正した。
- 6、解説不能の文字は、推測可能な文字を宛て、尚不能な場合は文字数を□で示した。
- 7、改行は「」をもって示した。
- 8、二行ワリの改行は／をもって示した。
- 9、読みやすくするため適宜句点、のみ付した。
- 10、[] は編者の補注である。
- 11、編集の都合上、各ページの冒頭に〔1頁〕の様に示した。
- 12、全体を通して英語の部分は、米国イリノイ大学のDr.Ronald.p.Tobyの御教示をいただいた。

（浅見 恵）

『思い草』

「明治廿三年
忍くさ
自八月至」

（シベリヤ）鉄」道ヲ取急ギ黒龍江及烏
龍地」方營兵ノ組織ヲ擴張シテ、殖」民
地ヲ設ケ、支那人ノ其辺ニ移」住スルコ
トヲ許サ、ル筈ナリト云フ

晩ヨリ雨降タル

German Causeヲ」読ム

〔1頁〕

八月一日 晴

家君ヨリ書状来タル

英国ハ北海中ノヘリゴラン

島ヲ独逸ヘ譲與シタリ

（七月卅一日London）

支那政府ハ蒙古ニ鉄道ヲ布」設シ、一殖

民地ヲ設ケテ大ニ」露国ニ備ヘント欲

シ、露国ハ之ガ」魁ヲ為サント欲シテ

二日 雨

新潟縣會ハ左ノ如ク

役員ヲ撰擧セリ（八月一日）

議長

萩野左門氏

〔2頁〕

副議長

清水治吉氏

常置委員 小柳卯三郎氏
渡辺腆氏
関矢儀八郎氏
石塚秀策氏
堀川信一郎氏
大瀧傳十郎氏
稲岡嘉七郎氏

ガラス障子デ話しは出来ぬ

ジット見合ス顔ト顔

政府ハ政社法ヲ実施セント欲シ、近頃
全国進歩党ノ連合ヲ差止メタリ、是レ
亦ター時ノ民間勢力ノ減少ヲ生ズベキ
カ

三日 雨

博覽會見物人

百〇二万三千六百九十一人

一日平均八千三百九十五人

竹石シニ書ヲ発ス

[3頁]

憲法第六十七条ノ豫算既定ノ方
法律ヲ以テ発布セラル

四日 晴

山崎氏ヲ訪問ス

伊呂波屋ニ至ル

此夜葉末集ヲ読ム、露伴子ノ筆鋒鋭利
無敵以快刀如断乱絲実ニ意想外ノ小
説、驚魂ノ小説、其清潔ナルコト
蓮水ヲ出ザルガ如ク、其出塵ナルコ
ト谷風ニ吹ク松ノ如トシ、巻尾忍月
子ノ評、頗ブル全ノ心ヲ得タリ、読了
午前三時半也

五日 晴

熊倉氏ヲ訪問ス

更科氏来訪

蝉ノ鳴ク声、蛙ノ歌フ声、雨滴ノ落ツ
ル声、木葉ノソヨグ声、子供ノ啼ク声、
犬ノ遠吠ノ声、雁ノ

[4頁]

雲間ヲ翔ケル声、皆声ノ特異ナル者ナ
リ

諸橋民三氏ノ死去セルヲ聞ク

定期米上騰

天賞堂ニ至タリ、懐中時計ヲ購求ス、
定價八円七拾匁也、関氏同行ス

愛国公党解党

六日 晴

四日自由党解党

熊谷氏ヨリ書状来タル

七日 晴

早川忠治 雛田作楽ノ二氏ヨリ書状来
タル

大同新聞社早川忠治氏 関利八氏等ニ
書ヲ送クル

早川氏ヲ訪問ス、不在也

[5頁]

八日 晴且不雨

雛田千佳良氏ヲ訪問ス

両三日来天氣不定、身神不快ナリ

家君ヨリ書状来タル

九日 晴

病院ニ往ク

早川氏ヲ訪問ス
花香恭次氏刺病ニ罹カテ逝」去ス
区役所ヨリ書状来タル
（アルゼンタイン）共和国尚ホ鎮定ニ
帰セズ、大統領セルマン氏辞職」セリ
（八月七日London）
改進黨員吉田 加藤ノ諸氏、政」社法ニ
十八條削除ノ建白ヲナス

十日

熊倉氏ヲ訪問ス
小林氏ヲ訪問ス、不在ナリ
忍月居士著 露子姫ヲ讀ム

[6頁]

趣向佳ナラザルニアラズ、字句鍊」ナラ
ザルニアラズ、然レドモ大概ネ」陳々
腐々、岸河ノ露子ヲ救センコト」露子ガ
雪子ヲ岸河ノ妻ト誤マリシコト
皆是レアリフレタル話ナシ、而シテ反
對ノ氣取半之丞業ノ顛末餘」マリ疎ニ過
ギテ文章一段ノ興」味ヲ欠キ独相撲ヲ取
ルガ如トシ、只ダ喜コフベキハ」御松ノ
艶書ヲ半バ讀ミテ半」置タル処ト、浮氣
ノ氣取ヲ給ムク所ト結句口」茶碗云々
ノ數行ノミ、而シテ露子夢中ノ」對話等
尤トモ其人物ニ反對」ス、如此言語ハ是
レ淑女ノ発」セザル所也、捨小舟ニ比ス
レバ、一等ヲ輸スト云フ」ベキ也鬚ヲ剃
ル」

黄燐輸出許可トナル

[7頁]

十一日 雨

熊倉氏来訪ス

徴兵ノ為メ区役所ニ往キ免疫許可ノ證
書受領ス

日本新聞ニ秋草蘆居士ガ重野博士ト」福
田上人ガ日蓮上人瀧口刀折ノ事ニ」付キ
辦論スルヲ論ジテ曰ハク、上人ハ史眼」
□コク、博士ハ教書ニ疎ナリト冷笑セ
シ」ハ知言ナリ

十二日

丸善ニ往キテGerman
Causeヲ購求ス、代價」壹円拾貳錢也
熊倉氏ノ依頼ニ應ジ、第一」国立銀行ニ
往キ金卅五円ヲ」受取ル、帰路熊倉氏ヲ
訪」問シテ之ヲ渡タス
木村氏ニ書翰ヲ出タス積リニ」テ端書ヲ
書置キシニ、同氏来訪セラレタリ

[8頁]

改進黨員尾崎氏ハ、熱心ニ合」同尚早説
ヲ取レリ、余ハ其卓見ニ」服ス

十三日 天氣不定

国民ノ友 附録ヲ讀ム

十四日 天氣不定

熊倉氏ハ小林氏ヲ訪問ス

十五日 氣不定

末松氏辞職

十六日

熊倉氏ヨリ書状来タル
熊倉氏雛田氏ヲ訪問ス
此夜詩三首ヲ作クル

十七日

家大人並ニ鈴木先生へ書翰」ヲ呈ス

[9頁]

鶴巻氏帰京

大同倶楽部解散

支那大洪水、慈善者モ困却セリ

福島 山形地方霖雨ノ為メ堤傍」破裂水

上ボルコト丈餘

山十醬油和鮮

祖父君ヨリ書状來タル

関氏ニ書ヲ發ス

熊倉氏ニ書ヲ發ス

西成度氏大審院長ニ任セ」ラレ、其他司

法官ノ榮轉數」多アリ

旧作ノ詩ヲ篇輯シテ、學餘落筆」トナス、

更ニ幾分カ彫琢ヲ試ロム

是ニ於テ前ノ佞屈ナル者流暢トナ」リ、

婉辭ナル者清瘦トナル、憲法發布」ノ詩

ハ、先年三十韻ヲ作ラント欲セシニ

十八日

非條約同盟之五團體ハ、頃日(十五日)

大祝宴ヲ中村樓上ニ張レリ、席上」慷慨

ノ演説、悲憤ノ詩文大ニ人ヲ」動カス、

聞クニ此席上來島恒喜ノ」勞ヲ謝ス、或

ハ改進黨ヲ国外ニ放」逐スベシ等ト疾呼

シ、大ニ喝采ヲ表」シタリト、蓋シ此事

ニシテ信ナラバ」余ハ同會ノ為メニ痛惜

セザルヲ得」ズ、殊ニ來島ヲ賞賛スルヲ

痛惜」セザルヲ得ズ

[11頁]

青歌ノ兩韻ヲ欠キシニ、今ヤ亦タ之」ヲ

整フヲ得タリ、玉磨勵ヲ經レハ、益円

満、文詩改竄ヲ經レハ愈雄麗、寔ニ」信

ナリ

二十三日

此日大風雨空甚ハダ曇モリ、風」亦凄コ

シ、雨ハ玻璃窓ヲ襲ヒテ草」木悲鳴ス、

最早二百十日モ近ヅキヌ」ルニ如此ク恐

ロシキコトアリテハ、氣モ」落付カズ

祖父君ニ書ヲ呈ス

清国近頃將ニ琉球ノ返還ヲ要」求セント

スル風説往々新紙ニ」現ハル事輕行スベ

カラズト雖モ如」此談判如シ來ラバ、何

時タリトモ」手強ヨキ返答ヲ作ス覺悟ア

ラザル」ベカラズ

孟子ヲ讀ム、相更ラズ面白ロシ

僻見カハ知ラネドモ、其氣象ノ雄大」其

言ノ痛切ナル、或ハ耶蘇ニ相似

十九日 晴

英国保守党將ニ斃レントス

[10頁]

二十日 晴雨不定

雜田氏來訪

二十一日 晴雨不定

吉川氏ヨリ書状來タル

関氏ヨリ書状來タル

尾崎氏大審院長ヨリ枢密顧問官ニ轉ス

[12頁]

タル所アリト思ヘル所モアリ

今日ノ要務ハ如何ニシテカ、欧米ヲシ

二十二日 雨

テ」日本アルヲ知ラシムルカ、如何ニシ
テ」露英ト雄ヲ東洋ニ争フカノ二点ナ
ル」カナ、今ヤ欧州互ニ睥睨、遠ク縣
軍」万里或ハ兵ヲ東洋ニ出ス者ナシ、今
ノ」時ニ及ヨビ大ニ軍備ヲ治サメ、文
化」ヲ興コシ実カヲ養成セハ、他日ノ
堅」甲利兵亦タ之ヲ得ル容易ナリ、孟」
軻子曰ハク、鑿其池也築斯城也
興民守之效死而□共則是可為」也、是豈
ニ已ム無キノ一策ナランヤ
一國ヲ組織スル者ハ其君タルト臣タル
トヲ問ハズ、此覺悟ナカルベカラズ
政党ノ分合議會ノ如何ハ、抑モ計」ノ未
ナル者也

廿四日 晴

目下ノ一問題タル合同事件」ハ、今日遂
ニ破烈セリ、蓋タシ
改進黨員島田、加藤、吉田諸

[13頁]

氏ガ第一同党ノ大會ヲ待タズシ」テ新政
党ニ入ルベキノ要求ヲ」洩々ナガラ受
ケ、第二綱領ノ自由主筆ノ四字ヲ掲ク
ルトノ要求ニ」断然袂ヲ拂フテ去リタル
ニ帰因ス、蓋シ首尾能ク合同スルコト
ヲ」得バ、國家ノ大幸ナリト雖モ、現
今」ニ於テ之ヲ望ゾムハ、猶ホ階ナ」ク
シテ屋ニ昇ホラントスルガ如キ」歟、落
墜ノ憂ナクンバ幸ノミ」
鶴卷 佐藤ノ二氏ト共ニ真砂」町ニ至タ
リ蕎麦ヲ食ス、時ニ夜十時頃也

廿五日

鶴卷氏ト共ニ熊倉氏ヲ訪」問シ、門前湧

井氏ニ遭遇ス

熊倉氏來訪

関氏ニ国民之友ヲ送クル

九州進歩党 愛国公党 旧自由」党大同
派ノ有志者更ニ立憲

[14頁]

自由党ヲ組織シ、自由ヲ以テ主義」トナ
ス、井上留五郎 前田下學 綾」井武夫
稲垣示ノ諸氏ハ議合」ハズシテ入ラズ中
立党ハ大成會ヲ組織」セリ

廿六日 少雨

鶴卷氏ト共ニ時計店ニ趣ムク

廿七日 少雨

鶴卷氏ト共ニ熊倉氏ヲ訪」問シ、同氏ト
共ニ眼鏡ヲ經テ」東部ノ繁華ヲ觀シ、駿
河臺ニ昇」ボリテ天下否ナ東京ヲ小トス
ルノ」大志ヲ生ジ、月ヲ踏ンデ帰ヘルト
ハ大層ナ御氣象ナリ

人常ニ曰ハク、古今ノ英雄ハ皆ナ機ニ
投ジテ起コル者ナリ、機ナクンバ」英雄
ト雖モ其術ヲ施コスコトナケン」ト、此
レ見到ノ言ニ非ラズ、英雄ハ

[15頁]

機ヲ作クル者ナリ、機ニ作ラル、者ニ
アラザル也

管野道親氏ト長谷川逸刀氏外」四五名ト
刃傷ニ及ヨビ、一時騷擾」タリ

新潟縣會議員大竹貫一氏等ニ」係ル議長
脅迫罪ノ判決ハ、証」憑不充分ノ為メ無
罪トナレリ

廿八日 曇夜大雨

豪州ニ於テ海軍士官(ストライキ)ヲ起コシ、二十隻ノ汽船皆休業ス
虎列刺初発以来全国ニ於テ患者九千二百六人、内死亡」五千三百七十六人也

廿九日

小林氏ニ書ヲ送クル
熊倉氏来訪
支那政府ハ蒙古ヲ貫エテSiberia境界マデ鉄道ヲ布設スル為メ、外

[16頁]

債三千万兩ヲ募集スルノ風説アリ
中央亜米利加ノ戦争ハ尚ホ未マダ」終ラズ、(サンサルバートル)ハ」毎戦(十一回)勝利ヲ得タリト
本月初旬、露京ニ於テ大學」教授コリトヴァスキー氏始シメ學」生数名、虚無党連累ノ為メニ」縛ニ就キ、陸軍士官ハ二名程」自殺シタリ
独逸帝ハ、ヘリゴラン島ニ来タリ島民ノ熱心ナル歡迎ヲ受ケ」タリ

卅日 雨

詩ヲ賦ス

[17頁]

卅一日

山崎氏ヲ訪問シ、国民英學」
籾田氏来訪會ニ至タル
此月ノ大勢ハ、政府ハ各党ノ勢力」ノ増加ヲ畏ソレテ、政社法等」ヲ發布シ、却テ在野ニ大刺衝ヲ」與タヘテ、其合同ヲ迅速ナラシメタ」ルニ在ル也、政府ノ策

士モ其計」極メテ拙ナリト云フベシ

[18頁]

九月一日 晴

小林氏ヨリ書状来タル
国民英學會始業、是レヨリ會則」ニ従ガヒテ毎日往ク」
籾田 小林ノ二氏ニ書ヲ送クル
二十日ナリ、全国各地無事
改進黨鮮党否決ス

二日 雨

家君ニ書ヲ呈ス

三日 晴

熊倉氏来訪
帰省ヲ讀ム、東京新報ノ評
我心ヲ得タリ、此書ノ他書ニ勝
サルハ真面目ノ三字ノミ

四日 雨

Malaulay's Walpoleヲ讀ミ竊カニ
我国近日ノ政事社會ニ感アリ

[19頁]

五日 晴

Seed Time and Harvestヲ作クル

六日 晴

関氏帰京
英詩Autumuヲ賦ス、此レ
余ガ英詩ノ初陳ナリ
大坂大火延焼二千餘戸

七日 晴

大同派中、非改進黨輩ハ先頃日曜
會ナル者ヲ組織シタルガ、更ラニ今
般立憲党ニ加入シタル者アリ、此」事ニ
付キ彼等ハ秘密條約即ハチ」改進黨ヲハ
立憲自由党外ニ是」非共排斥スベシト云
フ條約ヲ取」カハセリト云フ風評、東京
新報朝野国民新聞等ニ記載セラ」レ、大
同新聞ハ其虛妄ナルヲ辨」ジテ、紙上ゴ
タゴタタリ

[20頁]

露人ハ支那ニ大銀行ヲ建テン」コトヲ、
露政府ニ出願セリ
鐵道局ハ、鐵道廳トシテ内務省」ノ管轄
ニ屬セリ、是レ性質上通」信省ニ屬スベ
キ者ナレドモ、同局」長井上勝氏ガ之ヲ
欲セザリシ」ヨリ起コリシ者ナリト云フ
熊倉 雛田ノ二氏來訪ス

八日 晴

木村 熊谷ノ二氏ニ書ヲ送ル
木村氏ヨリ返書來タル

九日 晴少雨

時計鍵ヲ購求ス

十日

青年政事家ハ、改進黨ト立憲
自由党トノ調和ニ尽カスル」為メ運動ヲ
始ジメタリ

[21頁]

我政府ハ、條約改正案ヲ各国」ニ通知シ、
英政府ハ之ヲ倫敦」商工会議所ニ下タシ

テ其可否」ヲ諮詢シタリ、同商會ハ、之
ヲ贊」成セリ、然ルニ我国在留商人等ハ、
此條約成ラバ、其既得ノ權ヲ得ザル
ヲ以テ、大ニ之ヲ攻」撃シテ、近々中一
大會議ヲ開」ラカントスル由ナリ、吾人
ハ今度ノ」改正案如何ナル者ナルカラ
知」ラザル内ニ、早ヤクモ外国新聞ニ昇
ボリ、内国人ガ一啄ヲ容レザル」ニ、寄
留人ハ其否可ヲ議セントス」
政府ノ秘密ハ、其法ヲ□ンタル」者ト云
フ可シ、青木大臣ハ一身ノ」功名ヲ計カ
ル為メカ、我国人ヲ」猶ホ幼稚ナル者ト
ナスカ、一家ノ私事トナス乎

十一日 晴

佐藤良三郎 雛田千佳良ノ二氏來訪

[22頁]

來客アリテ學校休課
Danteノ語Nessim
maggior volere
Che recordarei del
tempo felice
Nella miseriトノ題シテ」課文一篇ヲ作
クリ、十二時ヨリ午前」五時ニ至タル

十二日 雨或晴

家君ニ書ヲ送クル
熊倉氏ヲ來訪ス
関西二十二州大懇親會無事開終ヲ告ゲ
タリ、同會ニ於テ改進黨自由ノ兩党連合
ヲ企」圖スル旨ヲ廣告シタリ
居留地外国人ハ大會ヲ催ヤウシテ、新
條約案ニ反對ヲ表シ、委員ヲ撰擧シタ
リ

昨日河島醇氏暴漢ノ為メニ身体ヲ」歐
[毆] 打セラレタリ
吉田松陰先生ノ遺母ハ、八十余歳ニシ
テ遠逝セリ、畏コクモ皇后陛下ヨリ追

[23頁]

悼」ノ令旨ヲ賜マヒタリ、且ツ先頃其真
影ハ」三陛下ノ叡覽ヲ経タリ、真ニ草莽
無上ノ」光榮ト云フ可シ、先生ノ靈、將
ニ地下ニ欣」然タルベシ

十三日 雨

小久保喜七氏、暴漢ノ為メニ傷」ツケラ
ル、各政党员戒心嚴ナリ

十四日 晴或雨

佐藤氏ヲ訪問ス、不在ナリ
霜鳥二郎氏ヲ訪問ス

十五日

熊倉氏来訪
立憲自由党結党式ヲ彌生館」ニ行ナフ、
會者千有余人、警官ノ」来集セルコト二
百五十余名、非常權」ヲ執行シテ壮士ノ
身体ヲ檢」査シ、刀劍銃器其他十種

[24頁]

然レドモ無事ニシテ終ヲ告ケタリ

十六日 雨

熊倉氏来訪、不在
山際氏 [七司] ニ書ヲ送クル
篁村氏勝関ヲ讀ム

十七日

學校ヲ休ム

民間有志ノ士、條約改正ニ付キ」大ニ居
留人ノ議決ヲ不当トシ、之ヲ」辨駁スル
者アリ

十八日 晴且強風

佐藤氏ヲ訪問セシニ病氣ノ」為メ平山氏
ニ趣キシ由ヲ聞ケリ
青木 後藤 西郷ノ三大臣ハ、條」約改
正全權委員タルベキコトヲ」仰付ラレタ
ル由
今井少将名ハ兼利、刺病ニ

[25頁]

カ、リテ死去ス
Romeノ詩人Virgil曰ハク
Ars longa, Vita brevisト
何人カ此感ナカランヤ
自由党常議員会ヲ厚生館ニ開ラ」ク、遠
藤秀景氏等先日大會ノ結党」式ヲ無効ト
シ、且ツ旨意書中ノ改進」ノ二字ヲ脱セ
ント欲シ、大議論ヲ」為シ、一時両党ノ
壮士動揺セル」ガ、遂ニ其議行ハレズ、
遠藤 山際」其他同志二千七名大會議ヨ
リ」退席セリ、京橋警察署ヨリハ大ニ」
巡查ヲ派遣シテ、會ノ内外ヲ警」衛シ、
出入人ノ身体ヲ検査シ、速」記者ノ鉛筆
用ノ小刀迄モ取収」ヘタリ
朝鮮ニ於テ、太妃ノ喪ニ来シ閱」尹等ノ
豪族大逆ヲ企テ、王家ヲ顛」覆セント欲
シタレドモ、其謀露頭」シテ騒然タリ

[26頁]

十九日

風尚ホ止マズ

家大人並ニ佐藤良三郎氏ニ書ヲ送ル
土耳其艦ハ去ル十六日紀州野「櫻崎燈臺
沖ニ於テラ機関ニ損」処ヲ生シ、暗礁ニ
打ち付ラレテ沈没シ「同国皇族ニシテ使
節タル（ラスマンバシ」ヤ）ヲ始ジメ死
スル者五百有余人、助命シタル者六十
余人ナリ、同軍艦ハ」実ニ不幸ノ極ト謂
フベシ
霜鳥二郎氏來訪ス

二十日 雨

祖父君ヨリ書狀來タル

二十一日 雨或晴

熊倉氏ヲ訪問ス
更科氏ヲ訪問ス、不在ナリ
The Children of

[27頁]

yearヲ作クル
篁村氏連葉娘ヲ読ム

二十二日 曇

遠藤 井上等ノ日曜會員等ハ、自由党
ヨリ分離セリ、退党セリ

二十三日 晴

更科氏ヲ訪問ス、不在
秋季皇靈祭ニ付、学校ハ休業
佐藤氏ノ事ニ付、平山吉龍氏ニ書ヲ送
クル
佐々木民藏氏來訪
土耳其艦ノ名ハ（エルドグロー）ナリ
熊倉氏來訪
虎列刺病再燃ノ勢ヲ生ズ

二十四日

小林 平山ノ二氏ヨリ書狀來タル

[28頁]

二十五日 曇

鈴木先生 小林清作氏ニ託シテ書狀ヲ
送クル
佐藤良三郎氏ヲ病院ニ訪問ス
宮中ニ於テ、元老院議官ヲ召集シ「陛下
ヨリ懇切ナル勅諭ヲ下ダシ」且ツ陪臣ヲ
仰付ケラレタリ、蓋ダシ
同院ノ終近キニ在ルヲ以テ也
學校ヲ休スム

二十六日 晴

木村次郎氏來訪
學校休課
スタイン博士遠逝（廿三日）
鮮良氏ヨリ書來タル
鮮良氏ニ返書ヲ送クル

二十七日

山崎氏ヲ訪問ス
熊倉氏來訪

[29頁]

二十八日 晴

是日本郷元町式丁目六十六番地
小林以志方ニ轉宿ス
土耳其軍艦覆没ニ付キ、金剛 比叡
連ノ兩艦土耳其ニ差向クベキ旨「仰出サ
レタリ
散髪

二十九日 晴

家君、小林時之介 小林清作
更科 霜鳥 早川 雛田 佐藤両氏
ニ書ヲ送クル
吉川氏ニ書ヲ送クル

卅日

勅撰議員発表、元老院議員」其多数ヲ占ム、其次各省官吏」民間ヨリ出デシ者十二名、合計」五十五名ナリ
小試験アリ、Macbeth's Paraphrac [s] eトMinatogawaノ作文ナリ
祖父君ヨリ書状来タル

[30頁]

十月

一日 雨

祖父君ヨリ書状来タル
雛田氏ヨリ書状来タル
丸善ニ到タリBret Heart [Harte]ヲ
購求ス

二日

第一医院ニ至タル
試験点数七十点ナリ
山崎氏ヲ訪問ス

三日 晴

祖父君ニ書ヲ送クル
更科氏ヨリ書状来タル

四日 雨

熊倉氏ヲ訪問ス
熊倉氏来訪ス
學校休課

[31頁]

五日 雨

更級 雛田 小林ノ三氏来訪ス
此夜義勇兵健策ヲ作クル

六日 雨

祖父君ヨリ書状来タル
學校休課

七日 雨曇

連日秋霖蕭々トシテ下ダリ、天地暗淡太甚ハダ精神ヲ勞ス、今日始メテ」微光ノ雲間ヨリ漏ル、ヲ見テ、大ニ」快喜ノ念ヲ生ズ

露国商人ハ、日本ノ東京其他四五」箇処ニ、貿易會社設立ノ請願ヲ」其大蔵省ニ呈出セリ

小學校令發布

人事編（二十六年一月一日始行）、訴」訟法（十一月一日始行）等發布」セラレタリ

[32頁]

八日 曇

依田氏ニ書ヲ發ス
試作米成績

種	一坪株数	枳量	一反歩の初
清水早稲	42	2 升3.3	6 石9.9
巾着中稲	36	1. 7.6	5. 2.8
郷 州	41	1. 7.2	5. 1.6
豊後晚稲	49	1. 9.2	5. 7.6
巾着中稲	38	1. 2.2	3. 6.6

(□□不用)

枢密院官制改正發布セラレタリ

九日 雨
學校休課

佐藤 更級二氏ヨリ書状来タル
熊倉氏来訪

十日 晴
依田氏来訪
山崎氏ヲ訪問シテ脚氣ノ診
察ヲ乞ヒ、一週間内學校ヲ休
スモコトヲ決定シタリ
今夜十二時比叡 金剛ノ二艦、土

十三日 晴
小林氏ヨリ書状来タル
十四日 晴
鈴木 解良ノ二氏ニ書ヲ發ス

十五日 晴夜雨
熊倉氏来訪
此日ヨリ學校ニ行ク

[33頁]

耳古ニ發ス
帝國議會ヲ十一月廿五日ニ召集スル
詔勅出ヅ
訴願法出ヅ
華族木下家ニ蔵スル豊太閣ノ真蹟」ハ左
ノ如トシ、是ハ歳ノ始ニ歳徳神ニ送」
リシ書ナリ

十六日 風
佐藤敬三郎氏病氣ノ為メ、今
朝帰国ス

としのはしめのたいけひは、てんか
あ」んのおん三とうおてにいれ雨か
下をとりおさめおもふまゝ
なりめてたく以上
一月二日 花押
てんか
年とく殿へ
まいる

十七日 晴
関 鶴卷二氏ト共ニ雛田氏ヲ訪

[35頁]

問シ、同氏ト共ニ小池 木村ノ二氏ヲ
拉シ共ニ雜司ヶ谷ヲ尋ヌ、□ハ市郭」ヲ
離ル大凡一里半ニシテ隔絶」大ニ積鬱ヲ
掃ラフ、道傍ノ脩竹」于々以雲ヲ呼ビ、
玉川上水」滄溼トシテ意ヲ洗フニ堪ヘタ
リ、衆」皆ナ囊貯ヲ傾ムケテ満籠紅」柿
ヲ携サエ帰エル

十一日 晴夜小雨
葡萄牙ノ内閣ハ辭職シタリ、右ハ」亜非
利加條約賛成者中ニ分離」ヲ生シタルガ
故ナリ（九月十八日）

此夜関 鶴二氏ト共ニ豚肉」ヲ食ス
朧月夜ヲ読ム、南翠居士是ニ」到リテ狂
セリ、実ニ無味ノ小説ナリ
アンモチヲ食ラフガ如トク、腹ニ持」ツ
小説ナリ、一読甚ハダ睡眠」ヲ覺ボヨ、
Char [a] cterハ稍ヤScott」ラシキ所モ
アルヤウナリ

[34頁]

十二日 晴
山崎氏ヲ訪問ス
長善館第三回同窓會ヲ自」由亭ニ開ラク

十八日 晴

霜鳥氏ヲ訪問ス、不在、帰路

早川氏ヲ訪問ス

更級氏ニ書ヲ発ス

[3 6 頁]

諸橋氏ヨリ書来ル

木村氏来訪

十九日

Pleasure of New Lifeヲ] 作クル

霜鳥氏ヲ訪問シ、更ニ小林] 氏ヲ訪問セ

シガ不在ナリキ

雛田氏来訪

anoni [y] mousアリ

廿日

イーストレーキ氏ノ令弟逝去ノ為メ、
今] 日課業休

元老院院ノ詔勅出デ、且ツ同] 院議官
ノ慰勞金トシテ各千五百円] 以内ノ金額
ヲ給セシム

板垣伯ノ主唱セシ自由新聞出ヅ

廿一日 晴

盗兇アリ、家ヲ窺カフ□□□吾人□々
タリ

[3 7 頁]

早川氏ヨリ書状来タル

廿二日 雨

大森鐘一氏縣治局長ニ任ゼラル

廿三日 雨

井上哲次郎氏帰朝、文科大學教授] ニ任
ゼラル

車馬衣輕裘朋友ト之ヲ與ニシ、敬ブル
モ] 敢無怨ト一寸見レバ、平々凡々ノ如
トキ] 様ナレド、中々之ヲ実行シガタキ
者ナリ、如] 此人ヲ見ルモ亦タ難タキ
哉] 自カラ責ムルコト輕ルクシテ、人ヲ
待ツコト重] モキ者□、人心日ニ離ナル、
徳ノ累ヲ為] スコト太甚ダシ

廿四日 晴

佛国本世記 (紀) ノ人口漸ク減ジ、出
死ノ割合相償ハズ、今其表ヲ掲] グ

[3 8 頁]

1801 - 1888年、32.8ヨリ23.4ニ

減ジ、1770 - 1888年ニハ

26.0ヨリ23.4ニ減ズ

他欧州諸国モ此様子アリ

39.1ヨリ36.3

伊 38.3ヨリ36.9

瑞 35.5ヨリ32.5

英 35.5ヨリ33.7

和 35.9ヨリ35.9

白 31.4ヨリ30.5

蘇 24.9ヨリ23.9

此レハ人口千ニ對スル出産之割合ニシ
テ1865年ヨリ1883年迄ノ統計ナリ

廿一年ノ調査ニヨリ北海道ノ總戸

口数等ノ統計

總戸数 72.677

人口 342.233

内男 182.077

女	160.155
移住戸数	2.567
内他国轉住戸	261
差	2.306
移住人口	8.586

[3 9 頁]

内他国轉住人口	822	
差	7.764	
屯田兵戸口数		
	十七年	廿一年
戸 数	587	1.595
兵 員	543	1.482
家 族	2.615	6.785
土人口数		
廿年	17.062	} 減少 390
十七年	17.472	

廿五日 晴

雛田大叔並同従弟ニ書ヲ送ク」ル、尤トモ本間某ニ托シタリ
山際其他新潟縣撰出の議」員諸氏（鈴木氏ヲ除）等ハ、衆議院議員タル者ハ党則ノ羈束ヲ受クベキ者」ニアラズ、独立トラザルベカラズ、且ツ」衆議院議員タル者ニ限ギリ、五十」円ヲ劇（據）出スベシトアルハ甚ハダ不」当ナリトテ、其出費ヲ拒バミタル

[4 0 頁]

ヲ立憲自由党ニ差出シタリ、常議」員會ハ之ヲ以テ自由党ヲ輕蔑シタル」者トナシ、且ツ議決ニ對シ漸ヤク
今日ニ至タリテ不服ヲナスナラバ不都合ナリトテ、遂ニ山際氏ニ退」党ヲ命

ゼリ

自由党ノ過激論者及ビ保守ノ」一部分集合シテ、將ニ国民自由」党ナル者ヲ起サントスル由風聞」セリ、若シ此党ニシテタハ、日本ノ」政党ハ右ノ如トクナルベシ」立憲自由党 進歩派

国民自由党 過激派

□權党

而シテ改進黨ハ將ニ立憲自由党」ニ入ルベシ、去レバ立憲自由党ハ」最大最強ノ政党トナルベシ

苟クモー團體ニシテ首領ナキトキ」ハ、是レ大ニ其團體ヲシテ運動」迅速ナラザラシム、立憲自由党ニ」於テモ亦タ然カリ、今日如何ニ

[4 1 頁]

常議員諸氏ノ敏腕ヲ以テ事ヲ」処スルトハ云ヒナガラ、一髮ノ間ダニ当」タリ、其中真点ナクンバ大ニ不可ナラ者」は生ゼン故ニ、余ハ該党ニ望ムニ、其」基礎既ニ定ルノ日ハ、總理ヲ公」撰スベキヲ以テス、而シテ何人カ」此撰ニ當ツベキ、問ハズシテ知ルベ」シ、此レ板垣氏ナルヲ人或ハ云ハ」ン、若シ板垣氏ニシテ統領タラハ」改進黨ハ入ラザルベシト、是レ甚ハダ」謂ハレナキコト也、尤トモ總理ナル者」ハ、團體中有形無形ニ存ズル者アリ、只ダ公撰ナル者ハ無形」物ヲ有形物トナシタル□ノ話也

改進黨豈ニ無形ナル故入り、有」形ナル故入ラザルノ理ナランヤ、況」ンヤ其無形ナルトキニ於テモ、天下ノ」人□ナ此レヲ知ルヲヤ

パテル□□ト博士ハ、學理上現今條約

無効ノ由、並ニ日本国ハ」領事裁判不必要ノ事等ヲ演

[42頁]

述シ、且ツ本邦人ニ勸ムルニ、我国」ノ事情形況ヲ各国ノ新聞記者 學者 政治家中ノ有力者ニ」送クリ、以テ彼国ノ輿論ヲ喚起」スルヲ以テス、此レ実ニ尤トモ」吾人ノ賛成スベキコトナリ、知ラズ我」国ノ人ニシテ欧州ノ演臺ニ上ボ」ル者アルヤ、欧州各国ノ新聞」ニ投書スル者アルヤ
伊藤伯ハ貴族院議長、東久世伯ハ副議長ニ任ゼラレタリ
我政府ハ何ゾ一命ヲ発シ、両議」院議員ヲ官職ニ登用スルノ道ヲ」開カザルヤ、是レ極ハメテ好政略」ト云フベシ
横濱ニ生糸賣ル悪ルイ諸商」人、大ニ困却ノ由ナリ

廿六日 晴

山崎氏ヲ訪問ス
小川町ニ於テ毛氈ヲ購

[43頁]

求ス
佐藤氏ニ書ヲ送クル
早川氏其兄ノ書翰ヲ携フテ来タル、之ニ」返書ヲ送クル

廿七日 晴

佐藤良三氏來訪
諸橋氏來訪セラレタリト雖モ、余」不在ナリ

廿八日 晴

此日諸橋氏ヲ訪問シ、帰路
佐藤氏ト共ニ厚生全官ニ行キ、能」辨学会演説會ヲ聽ク、辨士」福池、信夫、宇川、城山ノ其他」五六名ニシテ、聽衆場ニ滿」チタリ、飯時七時頃也
學校休課ス

廿九日 晴

霜鳥氏來訪

[44頁]

佐藤 諸橋二氏ト共ニ下宿屋ヲ」尋ネ、之ヲ淡路町ニ得タリ、飯路
一小亭ニ入りテ鳥ヲ食ス
高田氏來訪
佐藤□□氏來訪セラレタリト雖モ」余不在ナリ
諸橋氏等ト共ニ霜鳥氏ヲ訪問」シタリト雖モ不在ナリ

卅日 晴

此日若竹亭ニ往キ義太夫ヲ聽ク
講者竹本越路大夫ニシテ、其名扶」桑ニ冠タリ、同行者関、鶴卷、玉井」健部、曾我ノ諸氏ナリ
家君並ニ雛田ノ諸氏ニ書ヲ送クル

卅一日 晴

更科氏ニ書ヲ發ス

[45頁]

十一月一日 晴午後雨
木村 霜鳥二氏來訪
天賞堂、更科氏ヨリ書狀来タル
早川平治氏今日帰国

早川忠治、諸橋ノ二氏ヲ訪問ス
早川忠治氏ヨリ書面来タル

二日 晴

熊倉氏来訪

田中堅公、小林清作ノ二氏ヲ来」訪ス

三日 晴

諸橋氏来訪

小池氏ト共ニ雛田氏ヲ訪問シ」夜ニ至リ
テ皈ル

四日 晴

佐藤氏ヲ訪問ス、吉川氏ヨリ書状来ル
帰路諸橋、早川、依田ノ三氏ヲ訪」問ス、
不在ナリ、吉川氏ニ返書ヲ送ル
此夜再ビ諸橋氏ヲ訪問ス

[46頁]

五日 雨

諸橋氏ト共ニ越後屋ニ至タル
學校休

六日 晴

熊倉氏ヲ訪問ス

英文(題ハGrayノ感懷詩中」ノ二句ナリ)
一篇ヲ作クル

七日 晴

吉川氏ニ新聞ヲ送クル

八日 晴

熊倉氏来訪スト雖モ不在ナリ」キ

九日 晴、夜ニ至リテ雨フル

熊倉 鶴巻鶴一 関勸七 木村」ノ四氏
ト共ニ散歩ヲ為ス、大久」保公ノ石碑ヲ
弔シ、日枝神」社ニ詣シ、新橋ヨリ一直
線」眼橋ニ至タリテ分散ス

[47頁]

諸橋氏ヲ訪問ス、不在ナリ

十日 雨

十一日

諸橋氏来訪

諸橋氏ヲ訪問シ、圍碁数局
帰時夜十時ナリ
霜鳥氏来訪

十二日 雨

帝国議會開院式諸次第發布

十三日 晴

本年全国収穫高ハ、四千四百
二十五万二千四 [百] 七十八石ニシテ
平年作ヨリ一割半ノ増収ナリト
清国新任公使ノ名ハ、李経芳」ナリ

[48頁]

十四日 晴

此夜玉井 関ノ二氏ト共ニ若竹」亭ニ趣
ムク

十五日

早川忠治氏来訪

十六日 晴

霜鳥氏ヲ訪問ス、不在、諸橋

氏ト共ニ江東井生村□□ニ趣
ムキ古書画ヲ点覽シ、新橋ヲ
経テ丸ノ内ニ趣ムキ、帰路佐
藤氏ヲ訪問シテ、阿部氏ト圍
碁数局、帰路午後九時ナリ
柿ヲ食ス
鮮良氏ヨリ書状来タル

十七日 晴
好文堂ニ往キテ新聞雑誌ヲ見ル
湯ニ趣ムク

[49頁]

十八日 雨
家君ニ書ヲ発ス

十九日 晴
更科氏ニ書ヲ送クル

二十日 晴
The meaning of Imperial Deit [Diet]
ヲ作クル
古沢滋氏奏任三等ヨリ敕任二等ニ
昇任ス、人以テ異数トナス

二十一日 晴
佐藤 阿部ヲ訪問ス

廿二日 雨

廿三日 晴
霜鳥氏ヲ訪問シテ、氏ノ医院ニ入ルヲ
聞ク
熊倉氏ヲ訪問ス、不在
佐藤 阿部ノ両氏ヲ訪問シテ木村氏ニ

[50頁]

遭フ

廿四日 晴

鶴巻氏ト共ニ天賞堂ニ趣ムク
諸橋氏ヲ訪問ス、不在
廿一日阿蘭国ウチルレム第三世
陛下崩御、治世 (1817B.1849.Throne.
73age) ウチルレム第二世ノ長子ナリ
卒業試験始マル

廿五日 晴

今日両議院議員議事堂ニ會
シ、以テ陛下ノ召集ニ応ズ
衆議院ハ議長ヲ撰ス
議長候補者 副議長候補
中嶋信行 津田真道
津田真道 楠本正隆
松田松久 芳野世経
家君ヨリ書状来タル
木村氏来訪

[51頁]

廿六日 晴

諸橋氏ト共ニ西濤氏 [爲藏]ヲ訪問ス
佐藤氏ヲ訪問ス
中嶋信行氏ハ衆議院議長
津田真道氏ハ同副議長ニ
敕任セラレタリ
高田氏来訪

廿七日 晴

斎藤氏来訪
本科試験今日終

廿八日 晴

斎藤氏ヲ訪問シテ圍碁数局」諸橋氏ト共
ニ霜鳥氏ヲ病院」ニ訪問ス
今日ヨリ三十日迄デ、學校試験」
後ノ休業ヲ為ス
家君並更科氏ニ書翰ヲ送ル

[52頁]

廿九日 曇

此日天皇貴族院ニ出御マシマシ」我国帝
国議會開院式ヲ執行ア」ラセラル、海内
ノ赤子皆ナ驩虞如カリ
佐藤氏ヲ訪問シテ牛肉ヲ食ス

卅日 晴

諸橋氏ヨリ書状來タル
関 鶴二氏ト共ニ雛田氏ヲ訪問ス
諸橋氏ヲ訪問シテ圍碁数局
帰時夜十時ナリ

[53頁]

十二月一日 晴

東洋新報出ツ、人曰ハク、国民自」由党
ノ機関ナリト

十二月二日 晴

霜鳥氏ヲ訪問ス
解良氏ニ書翰並ニ文官豫會雜」誌ヲ以テ
ス
霜鳥氏ノ依頼ニ應ジテ、竹内」氏ニ東洋
新報ヲ送クル
雪少シク見ヨ

十二月三日 雨

井上毅氏文書局長ニ任ゼラル

四日 曇

温気太甚タシク精神不快
佐藤氏ヲ訪問ス
諸橋氏ヲ訪問ス、不在ナリ
貴族院辨護士法ヲ議ス
衆議院森時之介拘留ノ事ヲ

[54頁]

議ス

北海道ノ田畑反別 (十一月調査)
田 1. 451町7711
畑 13. 932町9900
地價 田 252. 232円694
畑 809. 877円696
一反平均田 17円374
畑 5円819

五日 學校ヲ休スム

六日 曇

佐藤氏 諸橋氏ヲ訪問ス
此夜小石川区傳隨院ノ隣寺ナル」光雲寺
ニ於テ、有志連合薩摩琵琶會」ナル者ヲ
催ヤウス、講者山下利助」氏ナリ、城山
ノ一曲殊ニ激烈ナルヲ」覺ボヨ、白樂天
琵琶行ノ妙ヲ覺ボヨ」坐ニ天道寺入道ア
リヤナシヤ

[55頁]

七日 晴

鶴巻氏 熊倉氏ト共ニ上野油画
展覽會ヲ觀ル
霜鳥氏ヲ訪問ス
斎藤氏ト共ニ中沢氏ヲ問フ

八日 晴

更科氏ヨリ書状来タル

高田氏来訪

丸善ニ往キFisherノ萬国史ヲ購求ス

紙幣ノ結果 補助紙幣現在額ヲ除ク

政府紙幣総額 115170340円

其内金札引換公債證書ニ轉換セシ者

14599150円

九日 晴

上野ニ於テボウルト□□ン風船乗ヲ執

行ス

高田氏来訪

[57頁]

直ニ切断銷却セシ者

24806186円

銀貨ヲ以テ交換セシ者

43346716円

十日

氣候常ニ復ス

熊倉氏ヲ訪問ス

教師病氣ニテ学校休課

散失及引上

418288

差引残高 三千二百万円

此ニ對スル者

準備現在金 一千万円

日本銀行無利足借上 二千二百万円

此故ニ此庫ニ保管金 三千二百万円

[56頁]

十一日 晴

教師病氣ニテ學校休

高田氏来訪

国債ノ結果

回数十四ニシテ、総額三億九千九百五十三万五千百円

償還セシ者、壹億四千五百十六万九千三百二十六円

未償還、276965774円

十二日 晴

学校休課、蓋光格天皇」五十年祭ナリ

曾我氏ト共ニ本郷郵便局ニ」行ク

二十三年間財政ノ結果

歳入歳出ノ結果 明治元年ヨリト同十

九年迄ハ」決、二十年ヨリ二十三マ

デ豫算

歳入 十五億五千二十三万七千百四

十六円余

歳出 十四億九千二百二万六百十三

円餘

最近二十一年ニ於テハ、3624414円余

二十二年ニ於テハ、4273803円余

剩餘国庫ノ保管タル者七百八十九万

八千二百十円余ナリ

公債整理ノ為メ、将来年々国庫ノ負擔?」減ズルコト既ニ百七十一万四千九百九十六円

大凡明治五十年ニ至リテ全額償却ノ義務アリ

[58頁]

預金ノ結果 十八年発布

総額 二千百(ママ)五百六十六万四千三百九十七円

造幣ノ結果

貨幣総額 172385763

地租ノ結果
 地租ヲ輕減スルコト前後
 14765883円余
 関税ノ結果 明治十三年
 明治十三年輸出入合計
 65021987円
 此収税額 2636589円
 二十二年
 136164472円
 此収税額
 4720584円
 官有財産ノ結果
 官設鉄道ノ延長 541哩
 此價 31618948円
 電信線路 2570里
 其線條延長 7108里
 一切ノ官業固定運轉資本ノ總計
 40757681円
 準備金ノ結果
 合計入 129236066円
 此支出

[59頁]

常用部ニ繰入レタル者
 40709450円
 常用貸付金部ニ引繼キタル者
 962908円
 株券ヲ以テ宮内省ニ引繼キタル者
 8600000円
 正貨交換等ノ差損
 25618992円
 紙幣交換基金ニ移スタル者
 53346718円
 本年三月三十一日ニ至リテ準備金ノ整
 理始メテ局ヲ告グ

中央備荒儲蓄金ノ結果十三年以降
 合計儲蓄金 4779271円
 合計支出 688699円
 差引二十三年四月一日
 残額国庫ノ保管トナル者
 4090571円

[60頁]

明治元年ノ輸出
 15550000円
 輸入
 10690000円
 二十三年ノ輸出
 70060000円
 輸入
 88100000円

會社ノ統計
 2038社
 明治二十年
 其資本 67855468円
 銀行店数二十一年 1061社
 其資本 72446063円
 明治十一年米ノ收穫
 25282540石
 一反歩ノ収納 壹石0二升
 二十一年ノ収納
 38645583石
 一反歩ノ收穫 壹石四斗四升
 明治十一年茶ノ出来高
 2761523貫目
 明治二十一年
 7252830貫目
 明治十一年製糸
 762607貫目
 二十一年………944400貫目

蘭十六年ノ出来高 771239石
 二十一年……………1184470石
 官私ノ鉄道合計二十三年調査
 1179哩60鎖

軍艦三十艘
 噸数 48,820噸
 乗り組人員 5,681人

[6 1 頁]

二十一年調査船舶
 西洋形船 1420艘
 此噸数 144194噸
 明治三年頃西洋形船 46艘
 此噸数 17952噸
 八年ノ車輛 271672輛
 二十一年ノ… 853397輛

{ 十二年ノ郵便物……
 60,923,999個 内国
 二十一年ノ……
 158,265,202個

明治六年ノ学校
 12597校
 此教員 27107人
 生徒 1326190人
 二十一年ノ学校 27923校
 此教員 69032人
 生徒 3050538人

此十五年間ニ於テ、人口ノ増加ハ一割
 九分弱ニシテ、學校ノ増加ハ二十三割
 弱ニ当タル

二十一年ノ軍務調査
 將官 四十八人
 士官 三千四百十六人

[6 2 頁]

下士 八千五百九十八人
 諸卒 230,501人
 二十八聯隊十八

十三日 少雨

早川氏ヲ再問ス、不在ス
 諸橋氏 依田氏ヲ訪問ス
 教師病氣猶ホ癒エズ、三十分丈ノ稽古
 アリ

十四日 半晴

此夜佐藤氏ヲ訪問ス
 anomymousアリ

十五日

教師病氣、学校休
 依田氏ヲ訪問ス、不在ナリ
 早川氏ヲ訪問ス
 放言高輪叨リニ人ヲ誹シリテ得

[6 3 頁]

タリト為ス者ハ、吾甚之ヲ惡クム

十六日 晴

學校休

十七日 晴

教師病氣平癒、學校授課
 斎藤氏ヲ訪問ス
 家君ニ書ヲ呈ス

十八日 晴

青木外務大臣ノ演説アリ、於議會

十九日

諸橋氏来訪
少年文武社ニ寄稿ス
国民英學會教師Eastlake氏ト磯部氏ト」
キラ生ジテ、教頭ハ同会ト關係ヲ立チ
タリ
此ノ紛糾ノ為メ、是ヨリ學校休業
衆議院商法延期ヲ決シ、且ツ保安條
例ヲ廢スルコトニ決シタリ

[6 4 頁]

二十日 晴

髪ヲ刈ル

二十一日 晴

熊倉氏ヲ訪問ス
諸橋氏ヨリ書状来タル

廿二日

諸橋氏ヨリ書状来タル
西潟氏ニ書状ヲ送クル
佐藤 阿兩氏来訪

廿三日

衆議院ヲ傍聴ス
議案ハ□ノ分合ニ関スル議
決権法案ノ二読会
議長ハ津田副議長ナリ
政府委員白根内務次官ナリ
午後十時販宅ス
家君ヨリ書来タル

[6 5 頁]

廿四日

熊倉氏ヲ訪フ

廿五日

貴族院商法延期ヲ可決ス

廿六日

内田司法大臣請暇、大木喬任
氏臨時兼任仰付ケラル

廿七日

山崎 熊倉 霜鳥三氏ヲ訪問ス

廿八日 晴又雨

婦納法論理学ヲ読ム

廿九日 雨

雛田氏来訪

卅日 少雨

伊呂波ニ至タル

[6 6 頁]

若竹亭ニ往ク
諸橋氏来訪

卅一日 晴

此夜関、鶴巻、玉井、木村、小平ノ諸
氏ト□□歳末ノ宴ヲ張ル、酒数升玉山
既ニ傾ル、是ニ於テ、雷戲ヲ設ケ各自
ノ秘蘊ヲ演セシム、寢時午前]三時頃ナ
リ、是ヲ明治廿三年ノ歳]末ト為ス

[6 8 頁]

神、本、芝、深、浅、小、四、中、田、
京、糝、赤、本、□、下、鹿
[東京の地名の頭文字カ]

[69頁]

中沢鳥之介

[70頁]

更科文三郎 小石川同心町十番地

熊倉操 神田猿樂町十番地 伊藤方

雛田千佳良 牛込西二十騎町拾七番地

天賞堂 京橋区尾張町二丁目十八番地

雛田作楽

関利八 新潟区学校町通式番丁

関照徳方

田中清之介

鶴巻鶴一 本郷元町二丁目六十六番地

小林イシ方

平山吉籠 本郷根津西須賀町四番地

小林時之介 牛込早稲田専門学校内

小林清作 小石川区上富坂町廿三番地

興盛館

雛田千佳良 牛込矢来町一番地九号

同 作楽

小林清作 馬込東片町十五番地

玉川方

諸橋加太次 神田淡路町三丁目三番

林スジ方

西潟為三 糺町隼町五番地

高岡忠郷 牛込市谷仲町式丁目

江口二三方

斎藤忠三 元町二丁目四十七番地

加藤栄十郎方

国分高胤 小石川区春日町五十番地

霜鳥二郎 第一病院内科五号

解説

小柳司氣太（おやなぎしげた）は二十才の時、明治二十三年のわずか一年間の日記を三分冊に分け、それぞれに「思くさ 一 柳々子（小柳の号）」、「遠毛飛多計（おもひたけ）」、「忍くさ」と表題をつけた。本紀要では五回にわたり掲載してきたが、今回を以て完了する。終わるに当たり、小柳司氣太について、巻頭の解題と重複する部分もあるが、若干の解説を記す。

司氣太は、明治三年（1870）十一月三日、新潟県南蒲原郡上保内村に生まれた。父は代々医家である熊倉家の四代目の眼科医玄周で、母は西蒲原郡中之口村東中（現在）の庄屋小柳清長の娘クマである。司氣太一才の明治四年に、父玄周は開業していた同郡八王子で不慮の事故で亡くなり、母クマは司氣太を伴い、実家の小柳家に戻った。その当時クマの兄小柳卯三郎に子供がなく、司氣太を養子とし、母は医師諸橋氏と再婚した。やがて卯三郎の子供（清熙＝私の祖父）が生まれ、名跡を継ぐことになり、司氣太は学問の道を志すことになった。明治二十年十八才で上京し、東京英語学校に入学し、病気のため一旦帰郷する。そして二十二年再上京し、国民英学館に入り二年間英語を学び、二十四年帝国文科大学漢学科（現東京大学）の選科生として入学し、二十七才で修了した。本日記は、再上京した翌二十三年の一月から十二月までの一年間を、二十歳の青年司氣太がちょうど開明期に出会った政治、社会、学問に対して、如何にも若者らしく心情を吐露している。その日常は、本屋にしきりに通い、精力的に読書をし、越後の友人たちとの交友もあり、いかにも学問を志す若者が青春を謳歌している様子が記述されている。日記の巻末には、親類縁者や友人の住所録の記載がある。当時としては珍しく横書きで、しかも英語までも墨書で記述している。そのため解説にはかなりの時間を要した。

後の漢学者小柳司氣太の原点は、初めて上京するまでの数年間を西蒲原郡粟生津村の漢学校「長善館」に学んだことに発する。祖父清長（日記の中の「祖父君」）、叔父であり養父でもある卯三郎（日記中の「家大人」）も学んだ長善館は、天保四年（1833）に鈴木文臺によって創設された漢字、英語、数学を教える私設学校であった。明治四十五年の閉館まで、優れた人材を多数送り出した。日記の中には、長善館の恩師鈴木恂軒先生や同窓生との交流が頻繁に記されている。さらに祖父、養父の記述も多く、特に養父卯三郎は当時新潟県会議員にあり、同県の山際七司、西潟為蔵らと自由民権運動に携わり、地租軽減、国会開設、条約改正の諸運動を提唱し、県内外で活動していた時期でもあった。養父の政治に関わる真摯な姿を見ていた青年司氣太にも、自ずとその眼は対社会にも及んでいったことは容易に推測できる。翌二十三年に卯三郎は衆議院議員となり上京した。日記はまた内外の新聞記事にもよく目を通しており、欧州の政治動向や日本の経済状況の数字（米の収穫高や人口の移動など）を、わざわざ書き写すという、まめな一面も窺える。

司氣太が帝国文化大学漢学科を修了してからその後については、以下の資料を参照して

いただきたい。この「履歴書」は司氣太の自筆であり、明治二十九年に広島県立尋常小学校教諭になっているので、その際に行ったものと思われる。（「越後国西蒲原郡中之口村小柳家文書」解説文より抜粋。立教大学図書館蔵・刊）

履 歴 書（原文は縦書）

- 一、明治十八年高野宮村小學校中等科卒業ノ上新潟県西蒲原郡粟生津村長善館ニ入り漢學ヲ主トシテ傍英語數學ヲ修ムル事二年間
- 一、同二十年東京ニ遊學シ日本中學校（当時ノ東京英語学校）ニ入り普通中等教育ヲ受ル事二年間
- 一、同二十二年東京ノ国民英學會ニ入り英語ヲ專修スル事二年間
- 一、同廿四年帝國文科大学漢學科へ撰科生トシテ入學シ全科目ヲ皆修シ規定ノ試験ニヨリテ別紙寫ノ證書ヲ受領ス時ニ廿七ナリ
- 一、同廿八年東京ノ哲學館ニ講師タリ

右

新潟県西蒲原郡小吉村平民

小 柳 司 氣 太

明治三年十一月三日生

證 書 寫

小 柳 司氣太

文科大学撰科生トシテ左ノ科目ヲ修メ試問ヲ完ウセリ仍テ之ヲ證ス

漢學科

西洋哲學史	旧文科大学講師	ルドウィヒ・ブッセ
史學	文科大学教師	Dr. Ludwig Riess
法制史	文科大学講師從五位勲六等文學博士	小中村清矩印
支那法制史	} 文科大学教授正五位文學博士	} 島田 重禮印
支那歴史		
支那哲學		
漢文學	} 文科大学教授從六位勲六等文學博士	} 星野 恒印
支那法制史		
支那哲学		
国史學		
漢文學	} 文科大学助教授從七位文學士	} 高津欽三郎印
国語		
国文學		

支那歴史	}	旧文科大学教授従四位勲四等文學博士	高野 安繹印
支那哲學			
支那法制史			
支那語		旧文科大学講師	張 滋 昉
独逸語		文科大学講師	Dr. K. Florenz
心理學		文科大学教授従六位文學博士	元良勇次郎印
比較宗教	}	文科大学教授従六位文學博士文學士	井上哲次郎印
東洋哲学			
印度哲學		文科大学講師	村上 專精印
倫理學		文科大学教授正七位	中島 力造印
美學及び美術史		文科大学教授	Dr. R. v. Koeber
教育學		文科大学講師正七位	野尻 精一印
支那哲学	}	文科大学教授従四位勲四等	竹添進一郎印
漢文學			
社會學		文科大学教授従四位勲四等文學博士	外山 正一印
国史		文科大学教授正六位	栗田 寛印

右教員ノ證明ヲ認了シ授クルニ修業證書ヲ以テス

明治廿七年十二月廿六日

文科大学長従四位勲四等文學博士 外山 正一印

ここに記されているように文科大学で、主として漢学を専修したことが知られる。

二十九年には広島県立尋常小学校教諭・三十一年十二月山口高校教授・三十七年から大正十年まで学習院教授・その後立教大学・国学院大学・大東文化学院・慶応大学を歴任し昭和十五年に七十一才で逝去した。

なお、私の勤務する立教大学図書館には、江戸時代初期から幕末・維新以降の地方文書と明治以降の卯三郎が関わった、村政、県政、国政の史料（江戸期、維新以降併せて約七千点）がある。特に自由民権関係の史料が多数あり、これは卯三郎が新潟県内の民権運動の幹事長的役割を担っていたために関係史料が集積されたことにもよる。さらに、本日記の中で司氣太が「家大人」に書簡を出した記事があるが、「小柳文書」には、二十三年に卯三郎に宛てた書簡が6通、その他の書簡や関係史料も多数所収されている。（閲覧・撮影可。但し、新規目録作成中）

筆者は、司氣太の縁者ということで本日記を解読することになった。それにあたり、横書きの墨書の極めて難読な文字を、それから二十六年後に司氣太自身が著わした「詳解漢

和大事典」(大正五年 富山房)等を活用して解説することになった因縁の深さを覚える。この漢和辞典の長所は、漢字を逆引き出来ることである。これは近世の古文書解説をする時にも大いに活用できて私の愛用辞典でもある。次に司氣太の業績の中から、上記以外の主な著作を紹介する。以下の著作に関しては、本日記の一回目の文頭に紹介した「近世の醇儒 小柳司氣太」(早稲田大学文学部教授村山吉廣監修 新潟県西蒲原郡中之口村刊 平成11年)に詳しい。

「宋学概論」	明治二十七年	哲学書院
「漢文体系本『墨子問詁』補釈」	大正二年	富山房
「漢籍訓釈」	大正九年～	国民文庫
「老莊哲学」	昭和三年	甲子社書房
「老莊の思想と道教」	昭和十年	関書院
「白雲觀志」	昭和九年	東方文化学院東京研究所

本稿の第一回掲載時に、小柳司氣太の日記は本稿のみと記したが、その後司氣太の嗣子小柳幸郎氏よりの情報で、大正十～十一年にかけて上海に滞在した時の「渡支日記」の存在を知った。いずれなんらかの形で紹介出来ればと思う。

最後に、本紀要に掲載を薦めてくださった史料室の中野実氏が、本稿の完了をご存じないまま急逝されたことを大変残念に思う。ここに心よりの感謝と哀悼の意を表して本稿を終りたい。

立教大学図書館情報管理課 浅見 恵